

ケロちゃん通信

2021年 5月 第71号



ながおか医療生協 あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1 電話番号0258-36-5810
http://www.nagaoka-iryu-seikyoku.jp/

- ☆ 桜もあつという間に散り、新緑の季節になりました。コロナでいろいろと制限のある生活が続きますが、GWは楽しくごせるといいですね。4月からの新しい生活にも慣れてきて、集団にうまく適応できない等の心配もでてきているお子さんもおられるかと思えます。お気軽に発達相談等でご相談ください。
- ☆ 4月21日より水曜日午前11:00-12:00に1歳未満の予防接種、健診枠を新設しましたので、ご利用ください。
- ☆ 6月より土曜日の診察時間を12時30分まで延長します。慢性疾患・予防接種の予約枠が増えますのでご利用よろしくお願します。
- ☆ 地域の皆様の要望にお応えするため、新型コロナウイルスワクチンの接種も専用時間帯を設けて実施予定です。まずは高齢者から始め、基礎疾患のある方、一般の方へと移行していきます。詳細がきまりましたらご連絡いたします。
- ☆ 当院では新型コロナウイルスの抗原検査、PCR検査を行っておりません。ご希望の方は、新潟県新型コロナ受診・相談センター(025-256-8275)または長岡保健所(0258-33-4932)にご相談ください。
- ☆ スギ花粉症やダニによるアレルギー性鼻炎でお悩みの方は、当院でも舌下免疫療法を行っておりますのでご相談ください。スギ花粉症は、シーズン終了後6月頃から新規に開始することができます。

5月の診療予定: 本間医師

(7日午前・午後 28日午前・午後)

診療案内

- ・感染予防のため、発熱、かぜなどの急性疾患を主に診る一般外来と慢性疾患(感染性のない疾患や定期処方など)を診る慢性外来の診療時間を分けています。

時間	月	火	水	木	金	土
8:30	一般外来 (急性疾患)					
11:00	予防接種 (1歳以上)					10:30 ~
12:00	慢性外来					
13:45	予防接種 健診 (1歳未満)					
15:00	予防接種 (1歳以上) 慢性外来					
16:00	一般外来 (急性疾患)					
17:30						

- ・平日午前11:00-12:00、午後13:45-16:00、土曜日午前10:30-12:00は、一般診療はできませんので、ご協力お願いいたします



- ・スマイリーでは、急性疾患は「一般外来」から、慢性疾患・定期処方等は「慢性外来」からご予約ください。
- ・もちろん、急を要するような場合には、すぐにご連絡ください。詳しくはホームページのお知らせをご覧ください。

小児気管支喘息について 2

＜治療＞薬物療法には、主に症状発現を予防するための長期管理薬(コントローラー)と、急性増悪(発作)時には症状を改善させるための発作治療薬(リリーバー)があります。

＜予防薬＞予防薬(コントローラー)には、吸入ステロイド薬やロイコトリエン受容体拮抗薬を中心とした気道炎症に対する抗炎症治療薬(モンテルカスト、ブランルカストなど)などがあります。症状に応じた治療ステップがあり、3か月以上良好な状態を維持できたらステップダウンしていくのが大切です。

＜発作治療薬＞発作治療薬(リリーバー)には気管支拡張剤(β 2刺激薬)の吸入や内服、全身性のステロイド薬の内服、点滴などがあります。重症度に応じて治療を行いますが、まれに重症化する場合にはイソプロテレノールや人工呼吸器管理などの集中治療が必要になる場合もあります。経口薬や貼付薬の β 2刺激薬は、コントローラーとしては使用せず、コントロール状態が一過性に悪化した場合に短期間使用して、症状が改善したら中止することが大切です。特に貼付薬の β 2刺激薬は、効果がみられるまで4時間以上かかり即効性がないため発作時の治療には適しません。

吸入方法は、乳幼児は、吸入液を吸入器で吸入、5-6歳以上では加圧噴霧式定量吸入器(pMDI)で吸入、3-5歳くらいでうまく吸入できない場合にはpMDIでマスク付スパーサーを利用します。

＜発作時の対応＞急性増悪(発作)への対応は、「家庭での対応」と「医療機関での対応」があります。発作強度は喘鳴、陥没呼吸、チアノーゼなどの症状や呼吸数、経皮酸素分圧などの程度により小・中・大発作および呼吸不全の4段階に区分され、発作程度に合わせた治療が必要になります。家庭では小・中発作への対応が大切です。

家庭で発作が起きた場合には、換気し、水分を飲み呼吸を整えます。適切な換気は大切ですが、外からアレルゲンが入ってきたり急に寒気などを吸うと症状が悪化する場合もあるので注意が必要です。一番即効性があるのは β 2刺激薬の吸入です。泣くと効果が落ちるので、泣かせないで吸入するのが大切です。内服も30分ほどかかりますが効果は期待できます。貼付薬は即効性がなく効果がみられるまで4時間ほどかかりますから、救急治療には不適です。吸入で改善しない場合には15-30分間隔をあげ、もう一度吸入し改善しなければ医療機関へ受診してください。

＜強い喘息発作のサイン＞

「強い喘息発作のサイン」があれば医療機関へ受診が必要です。「強い喘息発作のサイン」とは、唇や爪の色が白っぽいもしくは青から紫色、息を吸う時に小鼻が開く、息を吸う時に胸がペコペコへこむ、脈がとても速い、話すのが苦しい、歩けない、横になれないあるいは眠れない、ボーとしていて意識がはっきりしない、興奮するまたは暴れる、などです。個人的には、「眠れるか、会話ができるか、食べれるか」がめやすと説明しています。

著明な呼吸困難や意識低下または興奮がある場合にはためらわずに救急車を呼んでください。

＜注意点＞以前使われていたテオフィリンは、けいれんを止まりにくくする作用があるため、いったんけいれんがおこると重症化しやすいという欠点があり、小児にはほとんど使われなくなりました。全身性ステロイド剤は、まれに過敏症を起こすことがあります。特にソルメドロール静注用40mgには微量ですが乳糖が含まれており、牛乳アレルギーのお子さんでは注意が必要です。